

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は民間放送企業年金基金の事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。



理事長 酒巻 和也

(福岡放送 代表取締役社長)

さて、昨年を振り返りますと、世界情勢は、1月には懸案であった中東情勢がイスラエルとハマスの停戦が合意されましたが、その後もイスラエルのヒズボラへの攻撃が続いており、停戦の履行が確実でない状況が続いています。もう一方のウクライナ情勢は依然として終戦の兆しが見えない中、世界の安全保障は不安定な状況が続いています。こうした中、4月には米国トランプ政権の貿易相手国への関税引き上げ政策により、世界経済が大きな影響を受けて株式市場は大きく下落しましたが、その後、各国との関税交渉の合意が進み、落ち着きを取り戻しました。

一方、国内においては、10月には自民党と維新の会の連立政権が発足し、少数与党での政権運営がスタートしましたが、積極財政を掲げる政権発足による期待から、株式市場は日経平均が史上最高値を更新する状況が続きましたが、今後の新しい政権の政策が市場経済に与える影響に注視する必要があります。

このような中で、政府が掲げる働き方改革や高齢期における生活の安定を図るための一環として、被用者保険の適用拡大、在職老齢年金制度の見直し、遺族年金の見直し等の公的年金制度の改正に加えて、個人型確定拠出年金 (iDeCo) の加入可能年齢の引き上げや、企業年金の運用の見える化等の、私的年金の制度改正も行われました。

今年は、当民間放送企業年金基金にとりましては、現在の確定給付企業年金制度に移行後、2回目の財政再計算の年に当たります。財政再計算では、現在の制度設計の前提となる基礎率の見直しと、これに基づく財政計画の修正を行うことになります。併せて、将来の安定した制度運営が持続できるよう年金資産運用の基本となる資産配分の見直し等を行う予定です。

人生100年時代と言われている中、今後も、加入者及び受給者の皆様の豊かで安心できる老後生活のため、私的年金としての役割を最大限に発揮し、当基金への期待に応えるためにも、引き続き、安定した事業運営に全力を尽くしてまいりますので、皆様方のご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

